

■ 日本交通学会 第72回研究報告会 概要

2013年10月5日(土)・6日(日)の2日間、流通経済大学・新松戸キャンパスにおいて、日本交通学会2013年第72回研究報告会(研究報告、シンポジウム)、2013年度総会および懇親会を開催しました。



本年度の研究報告は、合計22件(初日:3件、2日目:19件)について7セッション(「物流」3件、「鉄道」4件、「道路・自動車」4件、「航空」4件、「地域交通」3件、「都市交通」2件、「観光」3件)に分かれて行い、2日間で約120名の方々が聴講されました。



初日の午後には「物流施策の課題と展望」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

前半では、まず、流通経済大学の高田富夫教授からシンポジウムの趣旨説明があり、続いて、日本通運株式会社の中村次郎氏より「物流のシームレス化と連結性の重要性－官・民の連携による連結化の推進－」、日本ロジスティクスシステム協会の久保田精一氏より「ロジスティクスコンセプト 2020」、国土交通省の金井昭彦氏より「最近の物流政策について」、東京海洋大学の苦瀬博仁教授より「安心・安全のための物流施策－救援・復興・防災のための計画論－」、一橋大学の根本敏則教授より「サプライチェーンのグローバル展開とアジア共通物流政策」と題して、報告が行われました。

後半では、高田富夫教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションが行われ、会員・非会員を含めたフロアの約100名の方々とともに、議論が展開されました。



総会では、前年度の会務および決算の報告、今年度の予算の承認に加え、新入会者の紹介(前期6名、後期8名)、2013年度日本交通学会賞の発表、理事選挙の結果報告などが行われました。

また、日本交通学会賞の発表に続いて行われた表彰式では、受賞した各会員に対して、塩見会長から賞状と副賞が授与されました。

【著書の部】

寺田一薫・中村彰宏『通信と交通のユニバーサルサービス』勁草書房、2013年3月

【論文の部】

朝日亮太、「米国航空産業における合併効果と低費用航空会社の運賃設定行動－デルタ航空・ノースウエスト航空のケース－」『運輸政策研究』15巻4号、2013年3月

木村真樹・赤井伸郎・倉本宣史「民営化が高速道路運営に与えた影響－DEAによる分析」『交通学研究』56号、2013年3月



夜は、同キャンパス内のカフェテリアにて懇親会を開催し、流通経済大学の野尻俊明教授や生田保夫教授、シンポジウムパネリストの方々も交え、親睦を深めました。



終わりに、今年度の研究報告会の開催にあたり、準備と運営に多大なるご尽力を賜りました流通経済大学流通情報学部の高田富夫教授、林克彦教授、矢野裕児教授およびスタッフ・学生の皆様に心より感謝し、お礼を申し上げます。

このようにして、2日間で延べ170名が参加し、すべての行事が滞りなく終了いたしました。

(事務局記)